



【測定所開設4周年！ これからもよろしくお願いします♪】

みなさま、5月15日の京都・市民放射能測定所 開設4周年のつどいは、約60名の方にご参加いただき、大成功でした。当測定所がここまで来れたのも、みなさまの多大なご協力あつてのことです。厚くお礼を申し上げますとともに、今後もぜひよろしくお願ひいたします。

会員総会の中では、測定所を続ける意味はどこにあるのか？という、鋭いご意見もいただきました。

確かに、当測定所で測っている最近の検体は「不検出」というものが多いです。京都のスーパーなどで売られている米や野菜などを計っても、放射性セシウムが検出されるものは、ほとんどありません。そういう意味であれば、京都および近畿圏に住む私たちは、食材の種類と産地に気をつければ、わざわざ測らなくても、放射能の影響からはある程度は防護できるかもしれません。

しかし問題はこれからです。

最近でも、宇都宮の小学校の給食で使われたタケノコが234ベクレル/kg汚染されていたことも明らかになりました。環境省「中間貯蔵除染土壌等の減容・再生利用技術開発戦略検討会」は3月30日、8000Bq/kg以下の汚染土を、「遮蔽および飛散・流出の防止」を行った上で、全国の公共事業で利用できる方針を決定しました。

情報を知らせず、汚染をばらまき、被曝を拡大するのが今の国策です。測定をやめれば、市民が監視することはできなくなってしまいます。だから、私たちは測定所を続けることをあらためて決意しました。

当測定所の最大の課題は、財政基盤の建て直しです。総会では、会員・サポート会員を200名、測定依頼を月に20検体をめざしていくことを確認しました。測定所のカラーリーフレット5000枚を作成しましたので、あらゆる場で宣伝していきます。新しい取組みとして、ホットスポットファインダーの購入と活用をめざします。

会員のみなさま。これまで以上に、物心両面のご支援を心からお願いいたします。

2016年5月21日

京都・市民放射能測定所 代表 奥森祥陽

事務局長 佐藤和利

